

訪問先	沖縄県那覇市（琉球大学、沖縄大学、沖縄県立図書館）
期日	2010年2月25日～28日
目的	<p>今回の出張では、次の2点に関する調査を行った。</p> <p>①日本研究・教育に重要な位置を占める沖縄研究の調査として、沖縄大学・琉球大学における沖縄研究の現状を調査</p> <p>②沖縄文学研究、特に児童文学分野の研究動向の調査</p>
調査結果	<p>①について、沖縄大学・沖縄国際大学等非常勤講師・鳥山淳氏に助言を依頼し、インタビューに応じていただいた（2010年2月26日）。沖縄県内の大学において、沖縄関係の研究者が不足し、学生の関心や研究者育成に対応できていないという状況について話していただいた。</p> <p>また、地域レベルでの歴史学習・教育が活発に行われているとの話を興味深くうかがった。しかし、地域の動きと大学との間で、連携はあまり行われていないとのことであった。大学においては、研究者を育成すると同時に、研究を地域や社会に還元できる人材の育成や方法の模索も必要であるように思えた。本学における日本研究・教育に重ねて考えてみても、本学での研究・教育を学生や研究者のだけのものとするのではなく、学外に開いていく方法を探る必要があるのではないかと考えた。</p> <p>②について、沖縄県立図書館で児童文学について資料調査を行った。郷土資料室および子ども室には、文学をはじめ歴史や自然科学など、沖縄に関連した児童書のコレクションがあり、子ども向けに沖縄の情報を発信する一拠点であることがうかがえた。また、米軍占領下の沖縄で発行された児童文学についての資料を収集することができたが、一方で、それらの資料を活用した研究の蓄積がまだ少ないことも確認された。今後、同時代の社会状況や、中央の児童文学との関係といった観点から調査を続けたい。</p> <p>収集資料：「童話研究 青い鳥」 斎木喜美子「琉米文化会館の残存資料—解題とリスト」「沖縄—占領の光と影」 Chizue Sesoko”The Legends of the Ryukyus”</p>